

再評価結果（平成29年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課
担当課長名：川崎 茂信

事業名 一般国道1号 島田金谷バイパス	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 中部地方整備局
起終点 自：静岡県島田市野田 至：静岡県掛川市佐夜鹿	延長 10.4 km	
事業概要 一般国道1号島田金谷バイパスは、静岡県島田市野田から掛川市佐夜鹿へ至る主要幹線道路である。当該区間は、暫定2車線で供用されており、本事業は島田金谷バイパスを4車線化し、交通容量の拡大を図る延長約10.4kmの事業である。		
H24年度事業化		S45年度都市計画決定
H26年度用地着手		H26年度工事着手
全体事業費	約240億円	事業進捗率
計画交通量		約58,800台/日
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) 5.6	総費用 (事業全体) 228億円 事業費：182億円 維持管理費：46億円
		総便益 (事業全体) 1,289億円 (走行時間短縮便益：1,200億円 走行経費減少便益：56億円 交通事故減少便益：34億円)
基準年 平成23年		
感度分析の結果 (事業全体) 交通量：B/C=5.1~6.2 (交通量 ±10%) 事業費：B/C=5.2~6.1 (事業費 ±10%) 事業期間：B/C=5.5~5.9 (事業期間±20%)		
事業の効果等		
①円滑なモビリティの確保 ・現道等の年間渋滞損失時間の削減が見込まれる。 ・現道等の旅行速度が改善される。 ・新幹線駅（掛川駅）へのアクセス向上が見込まれる。 ・空港（富士山静岡空港）へのアクセス向上が見込まれる。		
②物流効率化の支援 ・港湾（清水港）へのアクセス向上が見込まれる。		
③個性ある地域の形成 ・拠点開発プロジェクトの支援が期待される。		
④安全で安心できる暮らしの確保 ・三次医療施設（静岡赤十字病院）へのアクセス向上が見込まれる。		
⑤災害への備え ・第一次緊急輸送道路として位置づけられている。 ・緊急輸送道路が通行止になった場合に大幅な迂回を強いられる区間の代替路線を形成する。		
⑥地球環境の保全 ・CO2排出量の削減が見込まれる。		
⑦生活環境の改善・保全 ・NO2排出量の削減が見込まれる。 ・SPM排出量の削減が見込まれる。		
⑧他のプロジェクトとの関係 ・道路の整備に関するプログラムまたは都市計画道路整備プログラムに位置づけられている。		
関係する地方公共団体等の意見		
県知事の意見： 本事業は、県内の東西交通を担う国道1号において、朝夕に慢性的な交通渋滞が発生している島田市野田から掛川市佐夜鹿までの間の4車線化により、島田市街地と大井川渡河部の交通混雑の緩和や、沿線地域における物流の効率化を図るものであり、本県にとって重要な事業です。 引き続き、早期の効果発現に向け事業を推進するとともに、更なるコスト削減が図られるよう併せてお願いします。 また、各年度の事業実施に当たっては、引き続き本県と十分な調整をお願いします。		

事業評価監視委員会の意見

・「事業継続」することは「妥当」である。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・島田金谷バイパスは、依然として道路構成が2車線であることから、大井川渡河部を中心に、朝夕のピーク時間帯を中心に激しい渋滞が発生。
- ・島田市は全国でも有数の製茶の産出地域であり、近年、緑茶の海外への輸出が増加傾向にある中で、生産拠点や製茶工場などが島田金谷バイパス沿線に立地しており、島田金谷バイパスの4車線化に伴う地域全体の道路網の円滑化が、緑茶の海外輸出の物流活動に大いに貢献。
- ・金谷御前崎連絡道路が菊川ICに接続予定。

事業の進捗状況、残事業の内容等

・事業進捗率は6%、用地取得率は35%（平成28年3月末時点）

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

・平成24年度より4車線化に着手しており、現在、早期開通に向けて用地買収及び工事を推進。

施設の構造や工法の変更等

・技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進する。

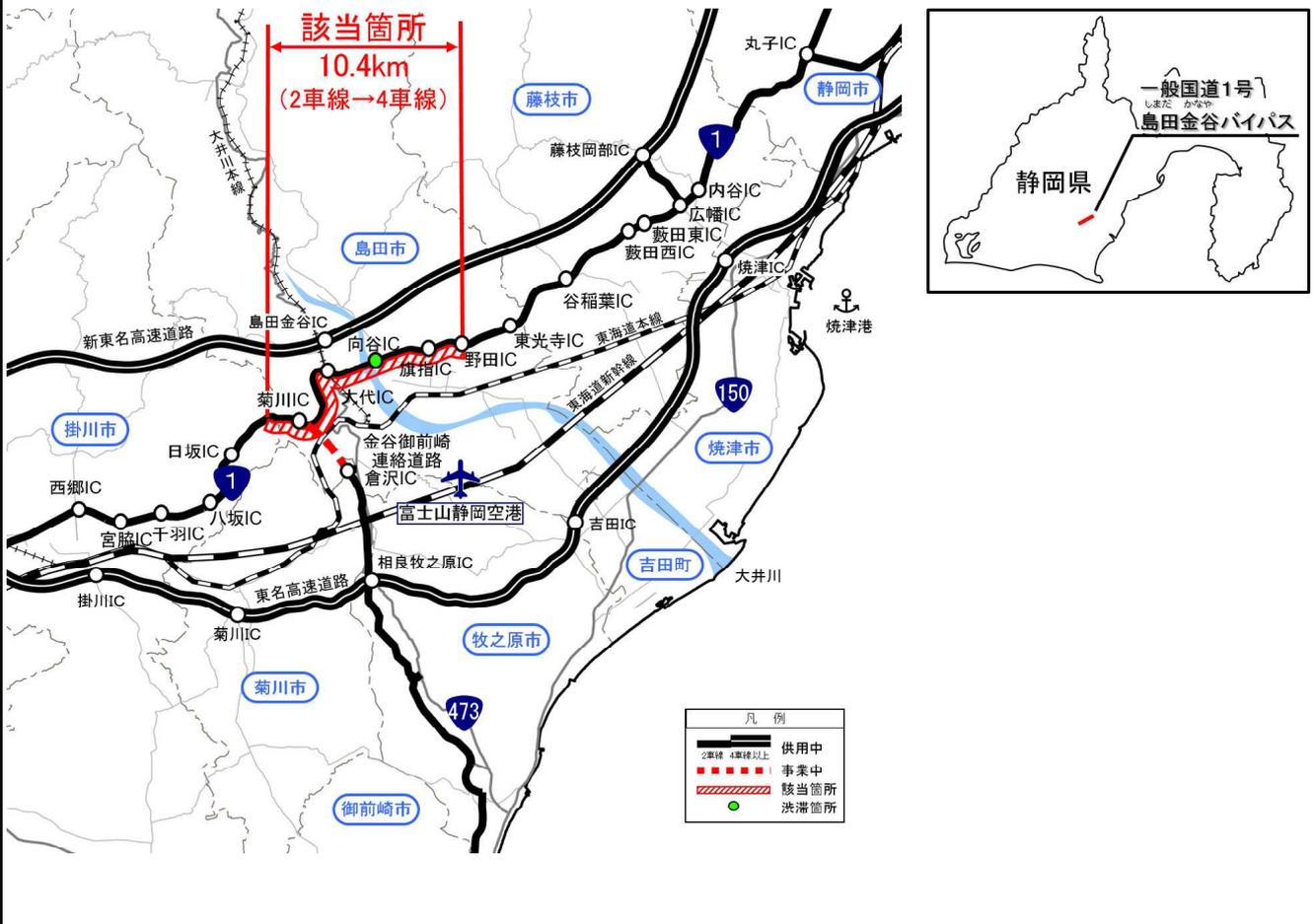
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないものと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。